

2015.3月

もいのものがたい

春号

みどり
100年後の森林のために

第5号



福岡県飯塚市 大分八幡宮の大楠

人も山も高齢化社会

「主伐」 今がチャンス

日本では近年、少子・高齢化社会が問題となつていきます。現在、4人に1人が65歳以上の高齢者ですが、20年後には3人に1人となるそうです。ところで、下のグラフを見てください。これは福岡県の森林の年齢構成を表したものです。46〜65年の年齢に大きく偏っていることがお分かりだと思いませんか。これは戦後一斉に植林されたスギやヒノキが大きくなったためです。このまま時間が経つと高齢の森ばかりが多くなることが予想できます。高齢の林分は成長がとまり、二酸化炭素の吸収など、公益的機能が低下します。山の土地は限られていますので、森を若返らせるには大きくなった木を伐つた跡に若い苗を植える必要があります。みなさん、地域や職場等人々

が集まる場所を想像してください。高齢者の方だけで元気が出ますか？若い人だけで何事もうまく進みますか？やはり若い世代から高齢者まで幅広い層の人々がバランスよく存在しないと、活気が出ないのではないのでしょうか？木も人間と同じ生き物、同じことが当てはまるのではないのでしょうか。

山を歩いて感じることもあると思います。

同じような高齢のスギ、ヒノキが立った山は面白みに欠けると思いますが、スギ、ヒノキでも年齢層がばらばらで所々に広葉樹がある山は、変化があつて目を楽しませてくれるものです。



横田副組合長、安川理事 秋の叙勲を受ける

平成26年度秋の叙勲におきまして、当組合理事の横田副組合長が「旭日小綬章」を、安川理事が「旭日雙光章」を受章されました。

両氏におかれましては長年の地方自治の振興発展に尽力された功績によりこの度の叙勲となったものです。この榮譽をお祝い申し上げますとともに、これからも健康に留意され、組合運営にご指導を賜りますようお願いいたします。

5名の作業班員が 全国林業功労者表彰を受ける

昨年、11月13日に東京都千代田区の砂防会館で全国森林組合代表者大会が開催されました。

同大会では、「国産材の利用拡大と森林・林業・山村の再生を目指して一林業の成長産業化で地方創生」をテーマに、系統組織が一致団結し、森林管理と国産材の利用拡大を図る事を決議しています。

大会の席で、地方の林業振興に功績があつた団体・個人が表彰されました。当組合では、南支店の次の方が表彰を受けました。長年の御努力に敬意を表すとともに心からお祝いを申し上げます。

- ・重松 英雄氏(小都市)
 - ・藤 敏樹氏(大野城市)
 - ・高島 重紀氏(那珂川町)
 - ・後藤 恒夫氏(福岡市南区)
 - ・元宮 文明氏(養基小国町)
- 以上5名

夢に向かって

御承知のとおり当森林組合は、平成25年4月1日に11の森林組合が合併して誕生しました。県内の29市町を管轄し、区域には計約7万haの森林が存在します。これは県全体の1/3にもなります。合併してから2年近く経ちました。組合員さんの期待に応えるためにも、さらに経営及び組織基盤を強化する必要があります。

そのためには、戦後営々と育ててきたスギ、ヒノキ人工林を利用して収益を上げなければなりません。人を育て機械を購入し素材生産を増やしていかなければなりません。そこで、組合では大きな目標を掲げてみました。「2020年(H32)までに素材生産量5万m³達成！」

2020年、これは東京オリンピックが開催される年です。この大きなイベントが開催され、国中が沸き上がる年に合わせて目標を掲げています。何となく元気のない世の中、こういう夢のある目標があると職員一同頑張る力が湧いてくるものです。

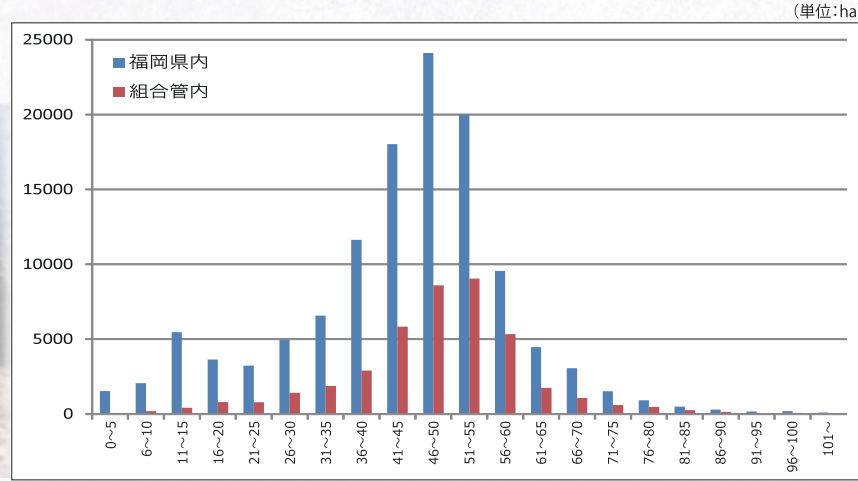
素材生産量を大きく増やすためには、現在主流の収入間伐と同時並行に、主伐による生産量を増やす必要があります。同じ1haの作業で間伐が約80m³の材を生産するのに対し、主伐だと約400m³生産することができず。組合では素材生産量を増やすために、林業作業

者の育成や高性能林業機械の導入を進めています。

今がチャンス

昨年6月発行「もりのものがたり」夏月号でお知らせしましたが、平成26〜28年の3ヶ年、福岡県が主伐に対して助成を行います。これは全国的にも珍しいものです。今こそ主伐するチャンスなのです。是非この機会に主伐をしましょう。せっかく長い間育ててきた高齢の木は大いに利用させていただきます。伐採跡には若い木を植えて活気のある山に育てていきましょう。組合員のみなさん、御協力をお願いします。

主伐のご相談は、最寄りの支店・支所の方にご連絡いただければ、担当者が現地調査や費用等の見積書を作成いたしますので、お気軽にお声かけください。



《林齢》	総数	0~10	11~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81~90	91~100
組合	41,688	262	1,220	2,197	4,776	14,429	14,375	2,817	1,058	389	125
県内	121,971	3,585	9,092	8,190	18,197	42,127	29,557	7,553	2,430	798	356



労働安全研修

支店別安全パトロール

9月に本店及び各支店の労働安全担当者で組合長、専務、参事が手分けをして作業現場の安全パトロールを3日間に分けて実施しました。

安全パトロールでは、「労働安全活動の4原則」の実施状況を中心に指導活動を行いました。

作業の基本である「指差し呼称」が不十分であり、作業班長等の指導が今後の課題となっています。

「4S運動」整理・整頓・清掃・清潔について指導を行いました。現場の軽油の置いてある横でタバコを吸っている者があり注意しています。

「作業前の打ち合わせ」や「危険予知訓練」の活動がまだまだ不十分であり、今後の安全研修活動を通じ改善を図っていく必要があります。



安全パトロール

各種研修会開催 森林作業道作設オペレーター 育成強化研修開催

平成26年度の林野庁委託事業「森林作業道作設オペレーター」の育成強化事業」に12月1日〜4日まで取り組みました。

国の委託事業者の一般社団法人フォレスト・サーベイの担当講師の方から現地地形図を利用した座学(基礎土工・応用土工)や現地の踏査の指導を受けました。

現地研修は、篠栗町萩尾の萩尾生産森林組合所有の50年生のヒノキ林で実際に作業道を踏査したコースに沿って約60mの開設をしました。

講師は、大分県の九大林産株式会社代表取締役の工藤洋一氏に忙しい中お願いしました。

工藤氏は、年間3万㎡の素材生産を行う中で、各地の作業道の研修会の講師として活躍しておられ、豊富な経験と卓越した技術で研修生に実践的な指導を行っていただきました。

今回の研修生は、各支店から合わせて4名の現業職員が参加しましたが、全員初心者で根株の掘り起しや盛土の転圧に苦労していました。

研修生は次のような感想を持っていました。

「道づくりで大切なことは十分な踏査を行うことである。勾配は緩くしたほうが、安全な搬出作業につながる。作設時に表土をうまく盛土に使用することで崩れない

プロセッサ、フォワーダ等の 作業者の特別教育

林業労働災害は年々減少していませんが、近年、高性能林業機械と呼ばれる大型機械が全国で5千6百台を超えるようになり、また、機械の増加に伴い労働災害の発生件数が増えています。

このため、平成25年11月29日付で「労働安全衛生規則の一部を改正する省令」が公布され、使用者は「特別教育」を受けなくてはならなくなりました。

今回の改正でプロセッサ、ハーベスタ、グラブプル等の車輛系伐木等機械、スイングヤード、タワーヤード等の車輛系架線集材機械、フォワーダ等の車輛系走行集材機械の運転業務について従事する者が該当します。

今年度、林業・木材製造業労働災害防止協会福岡県支部が、豊前市、久留米市、福岡市で開催した特別教育に現業職員や作業班員が多数参加しました。

今年度までは、実務経験を有していれば実技研修が免除されるので各地より関係者多数が参加して災害の実例等熱心に講義を受けていました。

作業道が出来る。作業を丁寧にきちんとすることが低コストにつながる事が分かった。」等研修の成果を口々に反省会で述べており、次回のステップアップ研修の要望が出され散会しました。



抜根作業



作業道作設

現業職員技能向上研修会

10月9日に宮若市大字犬鳴コイダの主伐予定地で現業職員の伐倒技能向上研修会を開催しました。

当日は、現業職員12名が参加して本店会議室で専務より「安全作業の基本」の話があり現地向かいました。

現地で使用しているチェーンソーの点検で、ソーチェーンの張り具合、目立て状況、チェーンオイルの吐出量の点検を行いました。



安全講習

緊急雇用就業者安全研修会

現在、福岡県及び糸島市の「林業労働力確保支援事業」で11名の方を緊急雇用しています。将来、林業現場で働きたいと希望している者もあり、基礎的な刈払機、チェーンソーの使用を中心に現業職員と一緒に技術の習得に努めています。

当日は、九州電力の電線近くでの作業を行う場合の安全作業について九州電力(株)福岡東営業所の担当職員から講義を受けました。送電線の接触事故事例等身近で作業している者としてその怖さを改めて認識しました。



研修風景



現場での伐倒研修

伐木は、胸高直径30〜40cm越えのスギ・ヒノキで受け口切、追い口切、追い口の高さ、クサビの使い方等について八女市矢部の原島政浩氏の基本指導により、参加者が決められた方向に伐倒しました。

日常やっている作業ですが、追い口の高さ、ツルの残し方、退避距離等について、安全作業上今一步の努力が求められました。

参加者は、「人前で作業することがあまりないので、緊張したが大変勉強になった。安全作業の必要性を再確認した。」と有意義な研修となりました。



伐倒木の枝払い

午後から糟屋郡宇美町のヒノキ林で伐倒の実習を行いました。講師は嘉飯山支店の田中 昭二氏にお願いし、伐倒作業の基本である受け口、追い口、ツルの残し方等チェーンソーの使い方を詳しく指導しました。また、安全な枝払いの方法についても行いました。その後、1人1人ヒノキの伐倒を行いました。まだまだ目標から外れたりクサビがうまく使えなかったりして、汗をかいていました。

伐倒後、各人が切株を確認してツルの重要性を認識していました。

研修生は、「今まで大きな木を伐ったことがなかったので緊張したが、伐倒のむずかしさと安全作業の大切さを知りました」と研修後話していました。



篠栗町林業振興大会開催

平成26年度篠栗町林業振興研修大会が10月3日に篠栗町「クリエイト篠栗」で150名余りの参加者を得て開催されました。

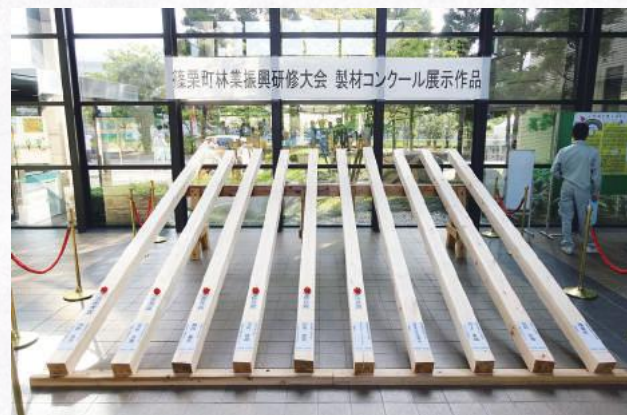
林業振興大会は、昭和60年から福岡農林事務所管内の市・町が主催して2年に1回関係市・町持ち回りで開催している大会です。福岡県や林業研究グループが後援しており地域の林業振興と活性化を目的に開催されています。

当日は、篠栗町の三浦町長より「篠栗町は、総面積の約7割を山林に囲まれた緑豊かな町であり、これまで先人たちが苦勞しながら守り育て、残してきた自然を次世代に引き継いでいかねばなりません」と主催者を代表してあいさつがありました。



篠栗町長による主催者あいさつ

当日、福岡地区の間伐・枝打ちコンクール及び製材品コンクルールの表彰式もありました。



製材品コンクール

間伐コンクールは森林所有者と間伐施工者も合わせて表彰され、施工業者の励みになっています。

又、長年枝打ち作業に精進して節のない柱材を生産して受賞した人は、努力が認められ喜びいっぱいでした。

大会に合わせ併催行事として「森林の役割・大切さ」をテーマに町内の小学生からの図画コンクールに195名から応募があり6名の児童が表彰されました。

記念講演に広島県吉和村の有限会社「安田林業」の安田 孝氏を迎え「攻めの林業を展開する」と題して講演をいただきました。安田さんは、大学卒業後4年間

森林施業プランナー育成研修

日本の森は所有者が多く1所有者あたりの所有面積が小規模であり森林整備上大きな欠点となり生産コストが高くなっています。

このために、森林施業の集約が必要となっています。

森林所有者と十分に協議をしながら、施業の時期・施業計画・収支計算等を作成する森林経営計画を樹立する担当者を森林施業プランナーと称しています。

平成23年度から始まった制度ですが、当組合ではまだ有資格者が少なく各支店の造林担当者7名が今回県主催の研修会に参加しました。



プランナー研修

平成26年9月17日～12月5日までに3回の集中講座と熊本県球磨森林組合を中心とした先進的な取り組み状況についての視察研修を含め都合11日間の研修受講となりました。

研修講師には、福岡県資源活用

研究センター、熊本県森林組合連

合会(独)森林総合研究所、鹿児島

大学教授等各方面から指導者が参加して多くのことを学ぶことが出来ました。

出席者は、研修成果を今後の経営計画樹立に役立てて間伐等の事業推進に当たります。



現場研修

地元の吉和村役場に勤めたのち、家業の林業を継ぎ有限会社「安田林業」を立ち上げ、積極的に規模の拡大と緑の雇用制度を利用しながら作業員の養成に努めています。施業の集約化にいち早く取り組み自家所有山林の周囲の山林の施業の委託を受けることでコストの削減を図り、現在では約3千6百haの施業委託を受けているそうです。

- 1 森を生かして、木材の地産地消を促進しよう
- 2 多様な森を育て、ふるさとに彩りを与えよう
- 3 森にふれあい、ココロとカラダを癒そう

最後に「本大会を契機に、わたしたちは、わたしたち自身の手で森林を守り、恵み豊かな森林を育てていくため、主体的に行動することをここに宣言します。」との大会宣言(案)が読み上げられ、参加者全員の大きな拍手により採択されました。

役員研修会開催

平成26年11月12日～13日に役員及び職員の視察研修を実施しました。

当組合の大きな課題である加工場の運営について勉強をするため役員16名と12名の職員が参加して大分県三重町にある大野郡森林組合に研修に行きました。

大野郡森林組合は、平成12年に大野郡内の8森林組合が合併して誕生した広域組合です。その後の市町村合併で管内の1町だけが佐伯市と合併したとのことで、組合名に郡を残しているとのことでした。



大野郡森林組合研修

組合事務所の横に素材市場と製材工場を設置しており、利便性が非常に高くなっています。市場は、年間約3万6千㎡の集材があり大分県内を中心にお客さんが銘柄材

福岡県森林組合連合会主催の役員研修会に参加

12月8日～9日に福岡県森林組合連合会主催の県下森林組合役員研修会が開催されました。

8日は、糟屋郡篠栗町の篠栗北中学校の木質化事業によるヒノキ、スギ板を使用した教室の視察を行いました。

篠栗町が町内の小・中学校の教室の床・壁をスギ・ヒノキ材で改装しています。当森林組合は、篠栗町と協力して町有林の伐採・搬出から製材・加工・納入までを担当しています。

中学生に聞くと「落ち着いて勉強ができる」「教室が暖かくなった」「話がよく聞こえるようになった」等みんな大変喜んでいました。

場所を移して県連合会横田会長のあいさつにつづいて、「福岡県森林林業基本計画」について県の担当者から説明がありました。又、「県産材の使用事例」や「森林組合におけるオンラインアセス」についての講演がありました。



篠栗北中学校

のエアスギを求めて来られているそうです。

製材工場は、乾燥材を中心に「大分方式」と呼ばれる天然乾燥・高温乾燥で非常に質の高い製品を出荷しています。「乾太郎」というブランド銘が定着しており市場に出すとすぐに売り切れるそうです。



製材工場視察

昨年までは、加工部門単体では赤字だったそうですが、25年度は木材価格の急騰もあり黒字転換したとのことでした。

しかし、黒字化への道のりの苦労は大変な努力を要しています。

大野郡森林組合の組合長、専務、参事等から直接いろいろな加工場や市場の経営についての質問に対して丁寧に回答していただき大変参考になりました。今回研修で得た現場との打ち合わせ会議を参考にして原田加工場フリー会議を早速始めました。

林家・人物紹介



宗 敏郎 氏

今回紹介する林家は、糸島市高祖にお住まいの宗敏郎さんです。宗さんは、平成18年に脱サラをして農業に就業されました。みかんを1.5ha栽培されており、柗みかんオーナー園組合の園主をされています。柗みかんオーナー園では、オーナーが購入したみかんの木(一本5千〜1万円以上)を園主たちが大切に育て、オーナーたちに収穫を楽しんでもらっているそうです。安全安心で美味しいみかんを食べてもらおうと、減農薬にも取り組まれているそうですが、毎年、ゴマダラカミキリムシやカメムシの害虫駆除には大変苦労されているそうです。10月中旬から11月末の収穫時期には、たくさんの家族連れなどで賑わっているそうです。園内には広場があり、バーベキューをするための道具の貸し出しも行っているそうです。食材を持ち込めばバーベキューとみかんの収穫が体験可能だそうです。その他にも米やシイタケも栽培

されています。シイタケ栽培では、自分の山から原木を切り出して菌打ちをやり、ホダ木はヒノキ山においてあります。みかんやシイタケは、地元の伊都菜彩(直売所)に出荷されているそうです。

宗さんの所有森林は約7ha(スギ2ha・ヒノキ5ha・クヌギ0.2ha)度利用間伐のモデル林として2.13haを宗さんも加入されてある糸島林研でタワヤーダなどを使用し、施業を行っています。

以前は、山での作業もされていたようですが、大部分が50年生くらいになったので、間伐等の作業は行っていないとの事でした。



利用間伐のモデル林

福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター便り(4) 森の宝物・原木キノコ



センター内ほだ場での実習

県では、福岡県林業研究グループとの共催で、林業新規事業支援取り組みの一環として、原木キノコ栽培塾に取り組んでいます。

今年も原木キノコ種駒打ちの季節がやってきました。30代から60代までの幅広い年齢の人が、参加しています。キノコは、若い人から年配の人、男性・女性を問わず多くの人が取り組める作目です。昨年までは、原木シイタケ塾として椎茸を主な研修としていましたが、今年から自然の中にある広葉樹を有効に活用できるように、他のキノコも含めた栽培研修しました。

◆キノコ栽培塾のはじまり

この栽培塾は平成21年度から始まり、今年で6回目を迎え、延べ人数64人を数えますが、中には複数回参加された熱心な人もいます。個人で初めて参加、小規模に栽培した人、ボランティアグループ

プでキノコ栽培に取り組むために受講する人々様々です。受講後は、実際にシイタケ生産を始められ、道の駅などの直売所に出荷するなどプロ並みの経営をされている人や、自家消費用に小規模に生産されている方もいます。また、実際やってみると大変だったり、いろいろな理由で継続できなかった人もいます。

◆キノコ栽培塾の研修内容

講師には一般財団法人日本きのこセンターから房田先生をお招きして、11月・12月・1月の3回に分けて、6日間それぞれ一泊二日、季節ごとの作業に合わせて行っています。

1回目の11月はシイタケやその他のキノコについての栽培技術基礎知識の構築と伐採作業、一年生ほだ木の伏せ込み作業等の実習。

2回目の12月は乾椎茸流通の現状について専門市場や生シイタケの青果市場の見学、大分県内のシイタケ栽培先進地研修。

3回目の1月はクヌギ原木に椎茸の植菌・生なめこの植菌、ユリノキの原木にヒラタケ・キクラゲの植菌です。

受講生は今年の春から栽培に取り組みむ意欲に燃えています。

今後も引き続き取り組んでいく予定ですので、キノコ栽培の基本技術を身に着きたい人は是非ご参加ください。

(林業普及課 0942(45)7868)

林業先進地視察

今年度は11月に林業先進地視察として大分県日田市へ行き、木材の需要、動向について講義を受けた後に、銘木の展示コーナーを見学し、日田林業の歴史等を学びました。

また、原木市場にも出向き、木材の有利な採材(木取り)について講義を受けました。



日田木材協同組合での講義

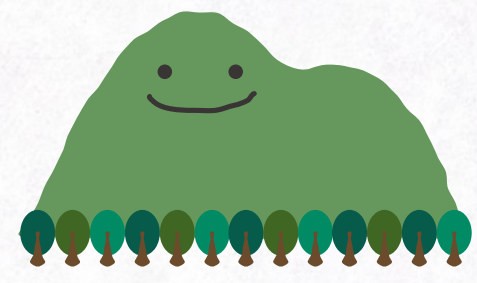


九州木材市場での原木市場視察

林研紹介

那珂川町林業研究会

昭和54年10月27日に那珂川町林業研究会の設立総会により発足し、設立当時は地元林業後継者22名で構成されていました。現在会員も増え、29名の林業後継者で活動を行っています。主な活動としては、昭和62年から行っていますグリーンパートナー交流会や、技術研修会、林業先進地視察、地元で開催されています産業祭の「農つ工ら商inなかまつり」や「那珂川町中山間ふる里まつり」等のイベントに参加しています。



グリーンパートナー交流会

もりのものがたり第4号でも紹介しましたが、7月に那珂川町林業研究会の目玉の活動であります「グリーンパートナー交流会」を行いました。この事業は自然に慣れ親しむ機会の少ない今日、山村と都会の子どもたちを交流させ、森林の機能、森林資源の活用などについて身をもって体験することにより、地域社会と林業の関わり方を学習するという目的で開催されています。



木工教室で椅子を作る児童たち

平成22年3月には、那珂川町林業研究会設立30周年記念式典を多くの来賓の方々に出席をいただき、グリーンピアながわにて記念植樹を行いました。



30周年記念植樹

また、平成21年には福岡県農林水産まつりにて県知事より表彰を頂きました。



表彰を受けた白水会長

これからも、交流会、先進地視察などを通じて研鑽に励み、みどり豊かな郷土の山を守るため努力していきたいと思っております。関係者各位の、ご指導、ご協力をお願い致します。

第3回(平成26年9月25日)

◎付議事項
第1号議案

原田加工場検討委員会の報告について
 ①原田加工場経営改善計画報告書
 ②原田加工場経営改善計画(案)
 ③原田加工場収支改善診断報告書
 第2号議案
 原田加工場検証委員会の設置について

第3号議案
 箱谷林道維持管理規程について
 第4号議案
 理事との契約について

◎報告事項
 ①コンプライアンス委員会からの報告について
 ②役員賠償責任保険加入内容説明及び一部保険料負担について
 ③役員研修について
 ④行事報告について
 ⑤事故報告について

第4回(平成26年11月27日)

◎付議事項
第1号議案

平成26年度冬期賞与の支給について
 第2号議案
 職員採用について

第3号議案

理事との契約について
 ◎報告事項
 ①原田加工場検証委員会より

・原田加工場収支報告
 ・原田加工場フリー会議の設置
 ②平成26年度事業の進捗状況について
 ③素材生産量5万m体制へ向けての基本計画について
 ④組合の行事報告及び予定について
 ⑤その他

第5回(平成27年1月22日)

◎付議事項
第1号議案

平成26年度上期決算について
 (監査報告)
 第2号議案
 平成26年度修正計画について
 第3号議案
 理事との契約について
 第4号議案
 総代補欠選挙について

◎報告事項
 ①原田加工場収支報告(進捗状況)
 ②平成27年度林業機械の購入計画について
 ③組合の行事報告及び予定について
 ④その他

職員紹介

このコーナーでは、各地で日々業務に励んでいる職員をご紹介します。

《記載内容》

- ①氏名 ②所属・役職
 ③担当 ④趣味
 ⑤コメント・座右の銘等



やまだ ひさよし
 ①山田 久能
 ②本店事業課
 森林整備係 技師
 ③事業全般
 ④剣道

⑤好きな言葉
 「一期一会」
 「敵は敵にあらず、
 敵は内なる我なり
 弱気は最大の敵」



やまぐち みえ
 ①山口 美恵
 ②福岡西支店
 糸島支所
 糸島支所長
 ③事務全般

④音楽・映画鑑賞
 ⑤コメント
 「いつも笑顔で」を心がけて頑張ります



かじわら とみこ
 ①梶原 富子
 ②福岡北支店
 宗像支所
 宗像支所長
 ③森林整備他

④温泉巡り
 ・おすすめの温泉
 嬉野温泉、ハミルトン宇礼志野
 ⑤今日も生涯の一日なり



ささき ひろあき
 ①佐々木 浩昭
 ②嘉飯山支店
 事業課 課長
 ③森林整備・林産他
 ④スポーツ観戦

(息子が出場するラグビーの試合観戦)
 ⑤好きな言葉
 One for all, All for one
 ～一人はみんなのために、
 みんなは一人のために～



はぎわら けんじ
 ①萩尾 憲治
 ②福岡南支店
 筑紫野支所 技師
 ③森林整備他

④旅行
 ・おすすめのスポット
 みかどホテルのバイキング
 ⑤好きな言葉
 「無我夢中」

犬鳴川に浮かぶ
 幻想的な夜桜

福岡北支店のある宮若市では、桜の季節になると犬鳴川河川公園にて「犬鳴川桜まつり」が開催されます。

犬鳴川河畔に整備された遊歩道沿いには約850mにわたり桜やつつじが植えられ訪れる人に春を感じさせてくれます。

3月28日(土)・3月29日(日)の前夜祭では、3千本を超えるキャンドルと電飾の光が照らし出し、幻想的な夜桜を楽しむことができます。



《お問い合わせ》
 犬鳴川みどりの会事務局
 電話番号/0949・32・0773

まつり紹介

遠賀川河川敷に
 咲き誇る18万本(球)の
 チューリップ

直方市では、毎年春になると「おがたチューリップフェア」が開催されています。

20年以上前に市民ボランティアが植えたのが始まりで、現在では各市民団体が構成される実行委員会により開催されています。来年は18万本(球)の色彩豊かなチューリップが直方市河川敷公園に植えられます。

期間中は各種イベント等も開催され、多くの見物客で賑わいを見せます。皆様も春を感じに是非出掛けてみてはいかがでしょうか。



おがたチューリップフェア
 《お問い合わせ》
 直方チューリップフェア実行委員会
 電話番号/0949-28-8135

峠紹介シリーズ 第3回
 冷水峠

平成27年、はじめての峠紹介シリーズ。今回は嘉飯山支店と南支店との間にある峠の一つ、冷水峠について紹介します。

冷水峠は飯塚市内野地区と筑紫野市山家地区にまたがって位置する峠です。道路としては、国道200号線とバイパスの有料トンネルである冷水道路が通っています。飯塚市と鳥栖市・久留米などを行き来する自動車が通行し、交通の要所となっています。

また、江戸時代には長崎街道が通っていました。

長崎街道の冷水峠は、現在の国道200号よりもさらに上った場所に位置しており、「九州の箱根」と呼ばれる難所であったそうです。

現在も、飯塚市内野地区には当時の石畳の一部が残っています。冷水街道は、昨年、大河ドラマにもなった黒田官兵衛の案で、初代藩主・長政の命で内野太郎左衛門が1612年に完成させたといわれています。



石畳みの残った峠道



長崎街道

街道整備をした理由としては、他国の大名が城下の福岡を通ることを避け、長崎と小倉を最短距離で結ぶためだそうです。多くの人々がこの街道を使い、吉田松陰や伊能忠敬などといった歴史上有名な偉人達も歩いたといわれています。

山の神祭り 安全祈願祭

高性能林業機械導入

福岡北支店宗像支所において、宗像市の助成を得て、高性能林業機械と呼ばれるグラップルとフォワーダ（林内作業車）を導入しました。

これからは主伐や収入間伐事業等に力を入れていくために、この機械を活用して、作業効率を高め、コスト削減に努めていく予定です。

導入された平成27年1月15日に今後の安全を祈り、宗像市野坂の現地にて安全祈願祭を執り行いました。



福岡西支店

平成26年12月から平成27年1月にかけて、本支店にて山の神祭りを執り行いました。

山の神祭りとは、山で働く我々の作業の安全を祈願するものです。各支店神社等で安全祈願祭を執り行い、その後、支店会議室において労働安全講習を実施しました。

講師には、林業・木材製造業労働災害防止協会の九州・沖縄ブロック安全管理士の森山慎二氏や各農林事務所の担当者、組合長から安全に関する講話を頂きました。



福岡南支店



福岡北支店



嘉飯山支店



本店



↓フォワーダ

↑安全祈願の様子

支店行事

第8回

那珂川水源の森づくり事業

平成26年11月1日(土)に、「那珂川水源の森づくり事業」が実施されました。

この事業は、那珂川流域で生活する住民の手によって上流域の森づくりを推進することです。森林保全活動の啓発と森林保護意識の醸成を図ることを目的とし、今回が8回目の開催となりました。

当日は那珂川町役場・アサヒビール(株)博多工場・那珂川町林業研究会グループ・同女性グループ・福岡県広域森林組合南支店で構成された実行委員会が主催しました。

那珂川町の山林にて植樹・下草刈りを参加者全員で行い、皆さんがすがすがしい汗を流しました。お疲れ様でした。



植樹風景



参加者集合写真

平成26年度 森と海の再生交流事業

山・川・海は、一体的な生態系となっており、森林から供給される水が豊かな漁場を育んでいます。森林の保全は、海や川の漁業者にとっても大変重要なことです。相互交流を兼ねて、水域全体の環境保全を図ることを目的に、平成26年11月29日(土)に実施しました。

福岡市役所・福岡市漁業協同組合・イオン九州株式会社・九州電力株式会社・福岡県広域森林組合福岡西支店で構成された実行委員会の主催で、福岡市早良区石釜の山林にて植樹をおこないました。漁業者・林業関係者や市民ボランティア団体等が共働して植林作業を行いました。

又、方面の協力団体からも大勢の参加者が集まり、盛大に行われました。



植樹風景

ちくしの森林ボランティアの会

平成26年11月9日(日)に筑紫野市にて開催された、「ちくしの森林ボランティア」に参加し、筑紫野市有林の下草刈りをおこないました。



↑ボランティア参加者

↓下草刈り風景



大池小学校での木育授業

1月19日に福岡市立大池小学校において、5年生約60名の児童が参加し、木育授業が開かれました。

この授業は昨年より農林中央金庫主催で県内の小学校で開催されています。

最初に、福岡教育大学の大内准教授から「森林の状況・手入れの必要性」及び「森林の役割」などの説明が有りました。その後、体



枝落とし体験をする小学生

育館に移動し、福岡南支店職員指導のもと、チェーンソー実演、高さ4メートル、直径約10センチのヒノキを使い「伐倒・枝払い・玉切り」の模擬体験をしました。

都市部の小学校ということで、初めてヒノキに触れ、慣れない手つきでノコギリを使う児童が多く、みんな興味深く一生懸命に木を切っていました。うまくノコギリが使えなくて悪戦苦闘した様子でしたが、切れた瞬間には大きな歓声が上がっていました。「うまく切れず大変だった・木の香りが良かった」等々、初めての作業にやや興奮気味に感想を述べていました。

森林・木々が自分たちの生活に関わっている事について知識を深めた有意義な時間を過ごす事ができました。

5万³m³体制整備検討委員会の立ち上げ

当森林組合の健全な運営を図っていくうえで重要な課題である素材生産量の拡大を図るために、本支店の職員と関係機関の職員で構成する「素材生産量5万³m³体制検討委員会」を10月に立ち上げました。検討会では、計画の目的と年度別生産量の目標の設定と設定目標達成のための重要課題である作業員の確保・機械化と購入計画・森林経営計画の樹立目標等今後の組合の重要な課題を検討していきます。



きこり選手権

平成26年11月22日(土)に佐賀県有田町及び伊万里市で開催された「第5回佐賀県きこり選手権」に5名の職員が研修・視察として参加しました。

有田町の現地では、50年生ぐらいのヒノキを「安全に基本に忠実な作業」で決められた伐倒方向にいかにも正確に時間内に倒すかが競われました。

また伊万里市の会場では本末同大に準備された競技用の大木をチェーンソーを使って下から上から伐つていかに木材に直角に正確に切られているかの丸太競技と輪切りの正確さとスピードを競う輪切りレーの3種目が1チーム3名による団体競技で実施されました。

主伐間伐等の森林整備は、今後益々重要になります。伐倒木は年々大きくなっており伐採技術者の技術向上と安全作業は最も重要なことであり、当組合管内での競技会開催の必要性を強く感じた研修となりました。



林業機械の紹介 第4回「タワーヤーダ」

林業現場で伐採された材は、枝が付いたまま全木で山土場まで集材され玉切を行うかの方法がとられていました。

一昔前までは、機械集材機を利用した架線集材が見受けられましたが、今では、技術作業員の高齢化や作業機械の変革等により作業を見ることがほとんどなくなりました。代わりに作業道を作設してプロセッサ・フォワーダによる搬出作業が主になっています。

機械集材は、集材機と木材搬出のためのワイヤーを支える先柱や元柱を現地の立木を利用したり、鉄製の塔を建てたりしていましたが、経費と時間がかかっていました。

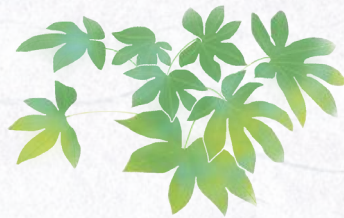
この集材機と元柱やワイヤー類をトラック等の荷台に搭載したのがタワーヤーダと呼ばれています。

トラックや大型の林内作業車に搭載されていきますので、林道・作業道があれば、現地まで短時間で運ぶことが出来、架設・撤収が短時間でできるのが主伐や間伐の搬出に期待されています。現場条件が限られた場所になったり技術を持った作業員が不足したこと等もあり普及が進みませんでした。



しかし、最近の集中豪雨被害の状況や岩や転石の多い急傾斜地の搬出には、架線集材の必要性が見直されており、改良されたタワーヤーダが見受けられるようになりました。

タワーヤーダは、主索を用いないランニングスカイライン方式の索張りで100m前後のスパン長の架設が多いようです。



牡丹鍋 (しし鍋)

発信元：宗像市食生活改善推進会

山の幸紹介



作り方

- 鍋に水とだし昆布を入れておく
- 野菜は好みの大きさに切る
- 鍋にAを入れ、水の状態からしし肉、ごぼうを入れ、途中アクを取りながらよく煮る
- 残りの野菜を入れ、柔らかくなるまで煮たら、合わせみそで味を調える(みその量は好みで調整してください)

《材料(4人前)》

- ししも肉(スライス) 300g
- ごぼう 1/2本(100g)
- 白菜 1/8玉(250g)
- もやし 1袋(200g)
- 長ネギ 1本(100g)
- 豆腐 1丁(400g)
- しめじ 1パック(100g)
- だし昆布 10cm
- 水 1リットル
- 酒 大さじ3
- みりん 大さじ2
- 合わせみそ 大さじ2
- 塩 小さじ1/2弱
- 合わせみそ 大さじ2程度

資格試験合格者

毒物劇物取扱責任者

平成26年8月5日に開催された、毒物劇物取扱者責任者試験において、本店総務課の「潮敦仁」が合格いたしました。

超難関 森林組合監査士試験に2名合格

森林組合監査士試験が平成26年12月2日、3日の両日、東京で実施されました。当組合より本店総務課の「潮敦仁」、嘉飯山支店総務課の「野見山久恵」の2名が受験し、見事合格しました。



美味しくて消費者に人気抜群のシイタケ 菌興号種菌

(一財) 日本きのこセンターは環境に優しい原木シイタケ栽培を応援します!!

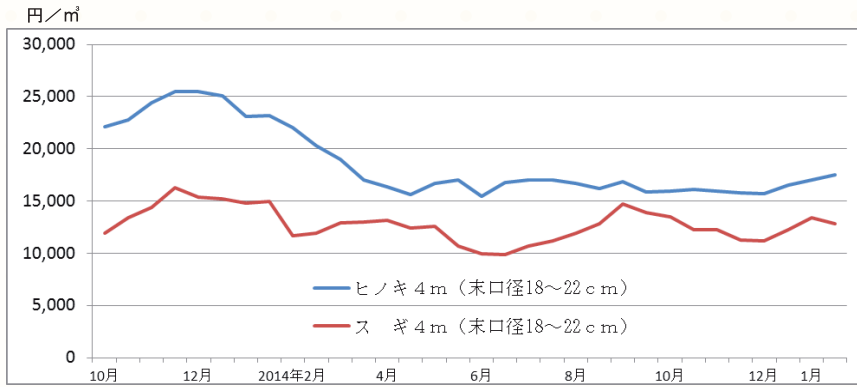
晩秋・春 115 乾・生 濃厚なうま味、豊富な栄養、消費者支持No.	秋・春 240 乾・生 秋から春にかけて分散発生ボリュームあり
---	--

晩秋・春 193 乾 ほだ木の寿命長く、古ほだ木でもきのこ大きい	周年 702 生 ほだ化が早く、安定した発生が魅力
---	------------------------------------

一般財団法人 日本きのこセンター 九州大分事務所

〒879-5521 大分県由布市挾間町鬼瀬423-1
TEL 097-583-5608
FAX 097-583-5601

スギ・ヒノキ木材価格の推移(福岡県森林組合連合会 浮羽事業所市況より)



秋以降若干の値動きはありますが、高値が続いています。平均の杉13,000円、桧16,000円前後、特に杉材は好調な取引が行われています。また、小径木は品薄感から高値を維持しています。桧材は優良材を中心に高値ですが、製品の荷動きが鈍いこともあり、若干抑えた感じになっています。

市況の動向

浮羽事業所初市

福岡県森林組合連合会浮羽事業所の初市が平成27年1月7日(水)に開催されました。全体では約1,500㎡の材が出ており、当組合からは主伐材約510㎡を含む約720㎡の材が出ております。



初市の様子

～平成27年春の展示会のお知らせ～

福岡西支店	4月25日(土) 開催予定
福岡南支店	4月17日(金)、18日(土) 開催予定
嘉飯山支店	4月10日(金)、11日(土) 開催予定

※日程は予定になっており、変更になる場合がございます。



表紙の説明

県指定天然記念物 飯塚市 大分八幡宮の大楠

大分八幡宮は飯塚市大分地区、県道90号線そばにあり、西暦726年に創建された歴史の古いお宮です。

大分八幡宮の広々とした境内にある「大楠」は参道の左にあります。推定樹齢は約350年、胴周りは約9メートルです。

神功皇后が三韓征伐から帰国の際に持ち帰った3本の楠の内の1本の子孫であると言われています。

昭和31年7月28日に福岡県の県指定天然記念物に指定されています。

また、クスノキは昭和60年の町村合併30周年を記念しまして町の木に指定され、今では飯塚市の市の木に指定されています。

